

特集

『緑化懇談会』『群馬みどりの街並み講演会』

(有)双葉造園 茂木 一彦

平成22年8月5日、群馬県造園建設業会館において当協会の主催、日本工業経済新聞社前橋支局後援により、県都市計画課長ならびに都市公園専門官をお招きし『緑化懇談会』を開催した。清水会長は冒頭挨拶の中で「今日の懇談会は行政(県)と業界(協会)がこのような形で懇談会を開くのは初めての試み、懇談会を通し当協会や造園業界の緑化に関する課題や今後の取り組みを模索したい。」と語った。続いて、『ぐんまの都市緑化を取り巻く諸課題』と題した都市計画課長の講演に移った。パワーポイントによる自作資料の説明を交え課長はまず「社会資本整備における公共事業に対する過小評価に疑問を呈した。しかし現在の社会情勢では真に必要な公共事業は行う姿勢はあるが以前のバブル的な整備は難しい時代を迎えた。が、今後維持管理などに予算が組まれるが質の良い景観・環境に係わるものは今後必ず必要になってくる」と量から質への転換の考えを述べ、都市緑化の重要性について、屋上緑化、壁面緑化の有効性を説き(地球温暖化防止、ヒートアイランド対策)、『観光、芸術・文化、道路管理』とともに緑の環境づくりによる『潤い』、景観・街

並み形成による『美しさ』が不可欠と都市施策の中に位置付けし、その実現には行政だけではなく、企業、団体、住民(市県民)、専門業者、などの力を借り進めていくことが必要で「自分達の手で郷土を綺麗にするという気持ちが必要」と結んだ。十数年前の東京都における緑化の標語『都市の美醜は市民のこころ』を思い出した。休憩を挟み、コーディネーターを岡田総務委員長が勤め、パネラーに講演を頂いた都市計画課長、都市公園専門官、協会側から、清水会長、荻原・須永副会長、石橋専務理事によるパネルディスカッションが行われた。

『公園のあるべき姿』『街路樹の役割と管理』『緑化予算の今後の見通し』のテーマでそれぞれ意見を交わした。

『公園のあるべき姿』では、課長は、「新規の都市公園の建設は難しく今後はリニューアルしていく方向であり公園ごとに長寿命化計画を平成25年までに策定する事になっている。その際には時代にあった利用しやすい公園が前提にある」、専門官も「公園整備に対しては個人の持っている公園に対しての想いが多様でそれを纏め反映させて行くかが鍵」と説明した。協会側から

は「最大公約数を捉えた整備では、どこも同じ公園ばかりで地域の特色を生かすことが出来ないのでは」との意見が出され、専門官はそれに答えて、「国の補助を受けるための規制が数多くあると同じ様な公園ばかりに成った要因のひとつと説いた、ただ今年度から各首長の考えが反映出来る公園整備が可能になるのでは」との見解を示した。

『街路樹の役割と管理』『緑化予算の今後の見通し』についてもそれぞれの立場から意見を交わした。

懇談会を傍聴した群馬建設新聞の記者は紙面で、「行政と業界が健全な公共事業の執行、建設業界のあり方を意見交換といった場で模索できることは非常に意義あることである」「忌憚りの無い意見の交換がやがては健全な業界、円滑な公共事業の執行へと進むことを期待する」と結んでいる。



緑化懇談会